

再編検討協議会 報告書概要一覧(R3.3.31現在)

地域	名称	状況	報告書概要
土山	山内学区幼保・小中学校再編検討協議会	終了	閉校、閉園することを了承する。
	鮎河小学校・鮎河保育園再編検討協議会	終了	閉校、閉園を了承する。
	大野学区幼保・小中学校再編検討協議会	終了	現時点では現状の保育園・小学校を存続させることが望ましい。加えて、将来的には、子どもの数が減少してきた時など教育環境に大きな変化が生じた場合は、改めて学校再編について協議を行う必要があると考えます。との結論。
	土山学区幼保・小中学校再編検討協議会	終了	園児・児童数の減少やアフター(ウィズ)コロナ等の予想のしにくい社会情勢の変化に対し柔軟に、調整検討をする機会が必要になると考えますが、現時点では保護者や地域の思いを踏まえると協議会としては存続させることが望ましいとの結論。
甲賀	佐山学区幼保・小中学校再編検討協議会	終了	小:小規模校の特性を活かした教育がなされている。また、地域と学校が一体化した運営が行われ学区内にある養護施設にとっても欠かすことができない。保:保育園から小学校へと幼児期からの仲間づくりは重要であり、欠かすことができない。
	油日学区幼保・小中学校再編検討協議会	終了	協議会において様々な論点から活発な議論がなされましたが、現在の保育園・幼稚園・小学校の保育や教育および園や学校での生活環境に問題は感じられず、それらは、地域の特色を生かしたかけがえのない存在であることから、協議会としては、幼保・小学校ともに存続させるべきであるとの結論。
	大原学区幼保・小中学校再編検討協議会	終了	保育園・小学校について、再編計画を進めるには、大原学区、油日学区、佐山学区が納得するまで議論する必要がある。将来を見据えた中で協議会では「再編も一つの選択肢である」との結論。
甲南	甲南第二小学校再編検討協議会	終了	現在の小学校の教育および学校での生活環境に課題は感じられず、学校と地域の関係も良好であり、地域にとってかけがえのない存在であることから、協議会としては、甲南第二小学校の存続を希望するという結論に至りました。しかしながら、将来的には、子どもの数が減少してきた時など教育環境に大きな変化が生じた場合には、改めて学校再編について協議を行う必要があるとの結論。
	甲南第三小学校再編検討協議会	終了	現状の甲南第三小学校の児童数や今後6年間の児童数を鑑み、他校との統合もやむを得ない状況ではあります。心情的には地域に愛されている甲南第三小学校の存続を希望するも、子ども達の学習環境を考えるとあまりにも少人数になることから苦渋の選択をすることになりました。但し、できれば、他校に吸収される形の統合は避けて頂きたい、3校区の合同の理解のもと新しい学校での再編統合を切に希望いたしますとの結論。
	甲南中部小学校再編検討協議会	終了	現時点では現状の小学校区を維持させることが望ましいと考えます。しかしながら、近隣校においては児童数の減少が看過できない状況におかれている学校があり、その状況を考えると、どの地域の子どもたちにとってもより良い教育環境の実現のためには、状況に応じた段階的な統合を検討する必要もあると考えます。
信楽	信楽学区保育園・小学校再編検討協議会	終了	将来を見据えたとき、学校の統合は避けては通れないものと理解している。クラス替えのできる学級規模は必要であるが、1学級の児童数は少人数の学級編成が望ましいものとする。
	雲井学区保育園・小学校再編検討協議会	終了	保育に最適な施設。小学校はきめ細やかな教育や異年齢交流などの教育が実施されている。また、子どもの生きる力は、保護者、地域住民の参画により育まれており、保育園及び小学校は現状維持とする。
	小原小学校再編検討協議会	終了	ほとんどの保護者が小原小学校で学ばせたいと考えている。また、地域にとっても無くてはならない存在。今後、改めて検討する必要性が生じる可能性もあるが、現在の環境がより良い環境であると考えていることから、存続させることが望ましいと判断した。
	多羅尾学区保育園・小学校再編検討協議会	終了	小:小規模で、地域全体で見守り育てるからこそ、夢を持ち、たくましく強く成長している。市内の子どもたちの教育環境の選択肢の一つとして必要。また、地域にとってかけがえのない存在であり、現時点として、存続すべきとの結論となった。保:閉園もやむなし。
	朝宮学区保育園・小学校再編検討協議会	終了	小:5校を1校とする統合は子どもたちにとって望ましい環境ではない。交流のある近隣校との再編であれば積極的に協議をおこなっていきたいと考えている。保:身近なところでの保育環境が必要であることから、朝宮保育園は必要であるとの結論。